

【家庭教育支援チーム】

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	鈴鹿市家庭教育支援チーム (呼称:一般社団法人家庭教育研究センターFACE(ふぁす)) URL: https://faceofficial.com/
②活動拠点	家庭教育研究センターFACE
③活動範囲	鈴鹿市を中心に県内
④組織体制	<u>12 人</u> 公認心理師 1 名、臨床発達心理士2名、保育士 1 名、保健師 1 名、 県スクールカウンセラー1 名、不登校支援アドバイザー1名、 心理機能訓練士1名、看護師1名他
⑤活動開始年度	令和元年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 家庭教育研究センターFACE(ふぁす) (TEL)090-1476-6135 (E-mail) facemail@faceofficial.com

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	☒ 保護者等への学びの場の提供 ☒ 保護者等への地域の居場所づくり ☒ アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) L ☐自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☒保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☐その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☒ その他(引きこもり等家から外出が難しい人へ電子居場所づくり)
②活動対象 (複数チェック可能)	☒ 乳幼児 ☒ 小学生(低学年) ☒ 小学生(中学年) ☒ 小学生(高学年) ☒ 中学生 ☒ 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

③活動内容	【具体的な活動内容】 ・FACE ゼミの開設 活動の拠点である事業所内で、通所者保護者、SNS やフライヤーから応募のあった保護者や、支援者関係者の勉強会を実施している。同時に交流の場としている。 ・毎月 2 回程度体験活動を実施。自然や社会での体験活動を通じて親子の関わりを深めている。 ・療育支援の中で対象児童のアセスメントを作成し保護者と共に保育・教育等と情報提供、相談対応を行っている。 ・毎月2回時間帯を決めて、電子居場所(ペルシェ ド ふあす)を開催している。 
④活動の成果 (活動実績がある場合)	・保護者からは、子どもの行動の理解が進み、親子の関係が良くなったことが報告された。また、保護者が、新たな支援者になった例もある。 ・家族の中で子ども行動や父親の関わり方が積極的になったとの声がかかれた。自然体験に参加は日々活動のストレスの軽減になるとの報告もある。 ・機関連携なかで対象者支援の必要性、その内容への理解が深まると聞いている。保護者からも関わり方や自身のあり方が前向きになったと聞く。 ・電子居場所では、その可能性はまだ未知数だが、普段出せない自分を出せた、自身の変化に驚くなど自己受容が進む声が聞かれた。
⑤活動財源 (複数チェック可能)	☐ 文部科学省補助事業(事業名:) ☐ 文部科学省委託事業(事業名:) ☐ 厚生労働省事業(事業名:) ☐ 地方公共団体単独事業として実施 ☒ 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施) ☒ その他の支援により活動を実施 (一部地方公共団体の補助、委託と補助)